

学校関係者評価 報告書

評価対象期間

2019年4月1日から2020年3月31日

2020年5月20日

学校法人 京都外国語大学

京都外国語専門学校

本校が行った自己点検評価結果について、学校に関係の深い方たちに点検・評価いただくことにより自己評価そのものの質を高め、改善につなげることを目的としています。

学校経営の改革方針や自己評価等の質を高め、次への改善につなげる。

学校運営や教育活動への学校関係者の協力や参画を得、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める。

設置者は学校関係者評価の結果をもとに適切な支援を行う。

具体的には、以下の4つの項目で評価を実施しました。

学校経営の改革方針の内容が適切か。

普通の学校の取組が「目指す学校像」を実現するためのものになっているか。

学校の自己評価が適切に行われているか。

自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切か。

【評価委員名簿】

以下のメンバーを評価委員として、委嘱した。

氏名	所属	種別
大田垣 敏信	株式会社ライン特別顧問(人材教育)	関連業界関係者
江崎 健太郎	江崎器機株式会社代表取締役社長	卒業生
森 誠司	私立高等学校講師	教育に知見を有する者
濱寄 祐之	学校法人職員	校長が必要と認める者

事務局：河村 光雅(京都外国語専門学校 副校長)

石永 法子(京都外国語専門学校 課長)

第1回学校関係者評価委員会開催

日時：2019年6月8日(土)10：00～11時30分

場所：京都外国語専門学校 会議室

出席者：大田垣敏信、江崎健太郎、森誠二、濱寄祐之、田淵良秋、河村光雅、石永法子

資料 2019年度大学などにおける修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請書

2018年度事業報告

2019年度事業計画

2018年度自己点検評価報告書

次第：

1. 開会のあいさつ
2. 校長挨拶
3. 出席教職員の紹介
4. 評価委員の紹介
5. 学校関係者評価の目的・評価委員の役割・評価の進め方の説明・・・事務局より
6. 学校概要・事業計画・自己点検評価の説明（資料 ）・・・事務局より
7. 学校・授業見学
8. 意見交換・質疑
9. 今後の予定の説明
10. 閉会のあいさつ

第2回学校関係者評価委員会開催

日時：2020年2月15日(土)10：00～11時30分

場所：京都外国語専門学校 会議室

出席者：大田垣敏信、江崎健太郎、森誠二、田淵良秋、河村光雅、石永法子

資料： 2019年度京都外国語専門学校 学校案内

京都外国語専門学校 ホームページ

2019年度春学期授業アンケート結果(9月)

次第：

1. 開会のあいさつ
2. 校長挨拶
3. 出席教職員の紹介
4. 評価委員の紹介
5. 委員紹介
6. 2019年度自己点検結果・春学期アンケート結果の報告・・・事務局

7. 自己点検結果に関する意見交換・質疑
8. 次回の予定の確認
9. 閉会のあいさつ

第3回学校関係者評価委員会開催

日時：2020年4月11日(土)10：00～11時30分

場所：京都外国語専門学校 会議室

次第：

1. 開会・資料確認
2. 校長挨拶
3. 出席教職員の紹介
4. 評価委員の紹介
5. 2019年度学校関係者評価のまとめの報告 事務局
6. 意見交換
7. 閉会のあいさつ

*上記内容で予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事務局で報告書をまとめて、書面での持ち回りで確認を依頼した。

基準項目ごとの学校関係者評価及び意見のまとめ

1. 教育理念・目標・育成人材像など

学校法人 京都外国語大学の建学の精神を受けた教育目標や育成人材像は明確である。また、ホームページや学生便覧などを通して、在校生や入学希望者には、明確にメッセージとして、伝わっていると思われる。

日々変化する国内外の情勢に合わせて、社会から学校に求められる教育内容も変化して行くと思われるが、本質を見誤らずに、学校運営に当たってほしい。

2. 学校運営

学校運営については、学校法人 京都外国語大学の各種規定に基づき運営されている。意思決定についても、教育の問題と経営の問題についても明確にされている。

法人の設置校間の連携については、募集段階での連携や高大専の教育内容の連携など、もう少し工夫が必要であろうと思われる。事務長連絡会などを実施しているようなので、そのような機会を利用して有意義な連携が取れるように取り組んでほしい。

また、単年度の事業計画は発表されているようだが、専門学校として中長期計画も明確にしていった方がよいと思う。法人の中での専門学校の位置づけが明確にできる。

3. 教育活動

学生の授業アンケートについては年2回(春・秋実施)しているが、それらの結果は開示されている。常勤教員については、評価制度にも反映されている。

各学科学習成果の客観的な指標として、各種検定試験を活用している学科が多い、今後も、その取り組みは継続するとともに、まだ検定試験を利用できていない学科は、可能な限り取り込んでいくべきであろう。また、それらの結果を踏まえて、教育内容の検討や工夫を加えていくべきであろう。

また学生には、インターンシップやボランティアにも積極的に参加させて、語学を通して社会との接点を発見させるような取り組みも増やしていくべきだと思われる。

英米語学科は、スピーチコンテストとランゲージフェスティバル、留学生は、弁論大会、ベトナム語専攻は外部のスピーチコンテスト参加など、学習した語学を使った発表の場が用意されていることは素晴らしい。他学科も、自らの言葉をアピールする場として、発表会を実施されてはいかがか？

4. 学修成果

2018年度編入決定率96.7%、就職率100%、2019年度編入決定率91.3%、就職率96.6%と高いが、就職後の卒業生の状況や編入後の卒業生の進路など、把握出来ていない点が課題と考える。

卒業生の社会での様子を知って初めて本校の教育の社会的評価が分かると思うので、卒業後の状況をどのようにして把握していくかを具体的に考えて、取り組んでいくべきである。

5. 学生支援

学生の退学者は過去3年間平均20%と依然高い状況となっている。退学理由として、進路変更(就職)、体調不良、学業不振、経済的理由、人間関係などが挙げられているので、今後に向けて具体的な対応を示し、取り組んでいくようにするべきであろう。

本校は学生数が増加している。経営的にはプラスに評価できる事だが、一方それ以前の本校の少人数で家族的、教員と学生の距離が近いという良き伝統が失われるとしたら卒業生にとっては非常に寂しく感じる。

カウンセリングや健康相談は実施しているようだが、学生を取り巻く状況は複雑化しているので、教職員の研修などを実施して、学生理解を深めるようにした方がいい。

経済的な支援については、2020年度から始まる修学支援の新制度を中心に、学校法人としての奨学金制度なども積極的に広報していくべきだと思う。

保護者との連携も重要であるので、学内限定の連絡用ホームページに保護者がアクセスできるようになったのは、よかった。適切な運営を行い保護者との信頼関係を深めてほしい。

6. 教育環境

授業アンケートに加えて、施設設備の要望なども把握しており、その都度予算申請から改善と進んでいるようだ。学生数が増加した分、卒業生としては、設備面で不足していて、学生にしわ寄せがきていないか不安を感じる。

今後のICT教育の可能性も検討してWi-Fi環境などの整備にも着手すべきだと思われる。

外国語を学ぶ上で、海外とのつながりも大切であるが、コロナ禍の影響を受けて派遣・交換留学を中止するなど、危機管理体制は機能していると思われる。

ただし、防災に関する体制は早急に整備するべきである。

7. 学生の募集と受入

アドミッションポリシーについてはホームページなどで示されており、見学会などを通して、学校の教育の進め方などは明確に伝えられている。

入試についても、面接と書類で総合評価しており選考は適正に実施されている。

学科により、入学希望者数に多寡があるので、その解消に向けての取り組みが必要であろう。

8. 財務

監査法人による年2回の監査も実施されており、決算についても学校法人として情報公開は行われている。

9. 法令などの遵守

情報公開については、遅れていたようだが、修学支援の新制度の初年度申請時から、学校の基本情報の公開、自己評価結果の公開、学校関係者評価の実施・公開など、大きく前進している。

個人情報についても規程に基づき、適正に管理されている。

ハラスメントや個人情報の取り扱いについて、研修などを継続的に実施して、教職員への理解をより深めさせるべきであろう。

10. 社会貢献・地域貢献

2021年開催予定の「ワールドマスターズゲームズ2021関西」のプレ大会にボランティアとして参加予定であったがコロナ禍の影響により中止となり残念であったが、この種の取り組みは継続して行くべきである。

11. 国際交流

外国人留学生については、1学年の学生数の15%以内と内規で受け入れ人数を限定しており、在籍管理ができる範囲での募集となっている。

生活面の指導についても、事務担当者と教員が連携を取って対応しているので、適正な指導ができていると思われる。

海外協定校については、中国語学科、韓国朝鮮語学科は増加しているが、英米語学科と東南アジア言語学科は、まだまだ十分よは言い難い状況であるので、海外協定校を増加させて、学生の選択肢（セミナー実施や留学など）を豊富にすべきだ。